

一步道調査報告会 兼 齋喜慶三氏を偲ぶ会に参加一

2018年3月25日（日）、13：00～15：00まで、「歩道報告会 兼 齋喜慶三氏を偲ぶ会」が開催され、参加しました。

豊中には、市内全域を対象として歩道の状態を調査する「歩道調査ユニット」というのがあり、これは、『「障害」をもつ仲間と共に歩む豊中若者の集い』（通称「豊中若者の集い」）の実行委員有志によって構成されています。

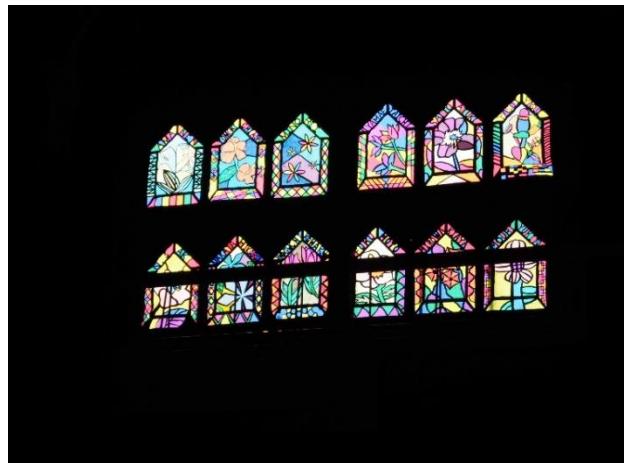
調査した結果はインターネット上にて公開中です。

【それでも街にでかけよう！】

<http://www.ekisuta.jp/hodou/index.html>

この調査活動がスタートする切っ掛けとなり、約15年にわたって中心となって活動されてきたのが、齋喜慶三（さいき けいぞう）さんという方でした。齋喜慶三さんは過去に、当法人主催の障害児教育をテーマにした学習会で講師を務められたり、また、当センター(自立支援センター)の管理者とは、長年公私にわたり、親交を深めてきました。その齋喜さんが、昨年10月に他界されました。

そのため今回は、長年の活動を振り返ると共に、故人の仕事と人柄を偲ぶ会を兼ねた報告会が、開催される運びとなりました。会場は、教師であった齋喜さんが最後に赴任した、市立第五中学校でした。



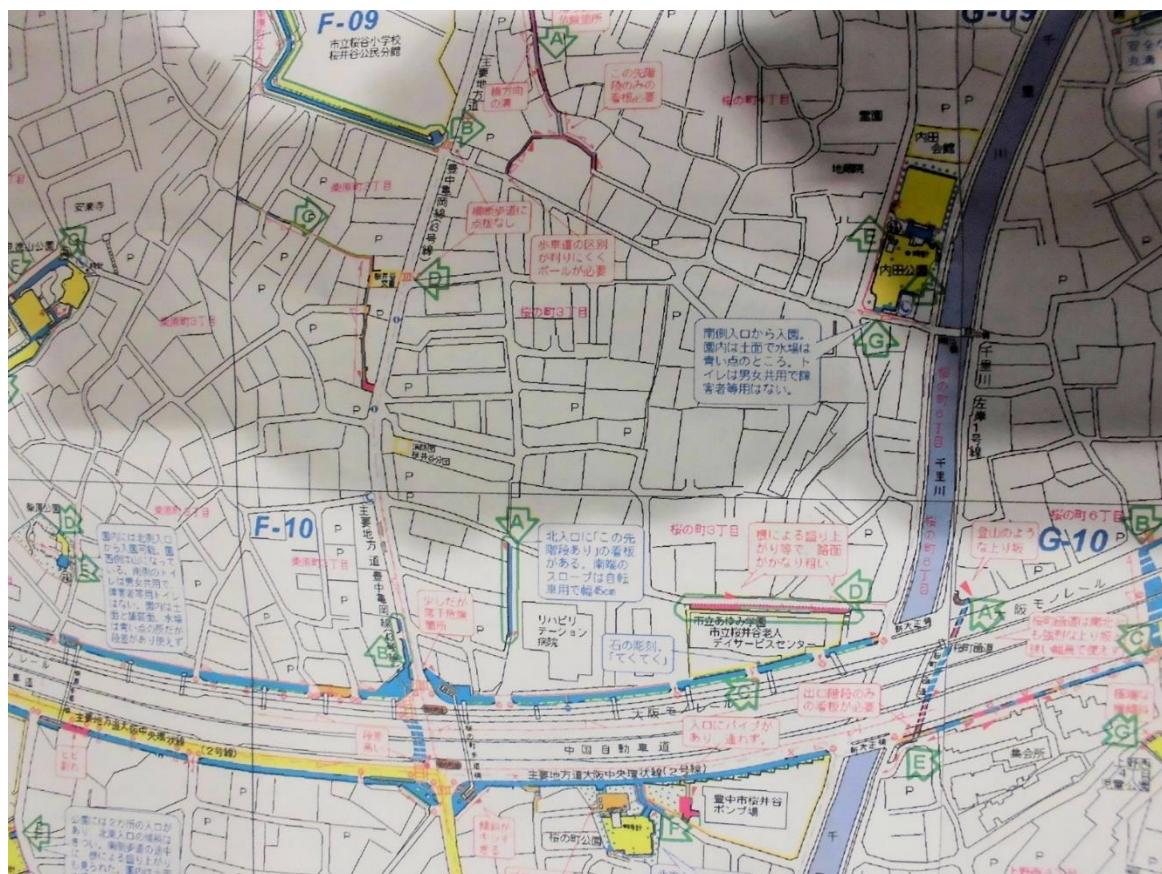
斎喜さんは美術の先生だったので、生前に創った作品の数々も展示されていましたが、この日の展示物の主役は、なんといっても調査マップ。膨大なデータをビッシリと書き込んだ、「よくぞここまで細かく」というようなマップの数々が、何枚ものブロックに分かれて卓上に展示されていました。これらは、普段は上記アドレスのホームページ内で閲覧することができます。



偲ぶ会では、生前の齋喜さんの、漫談・大喜利全開人生（ご存知の方はご存知です）

が、映像やスライドと共に振り返られましたが、長年、齋喜さんと親交があった、この会の司会者の方は、キャラクター全開で講話をするご本人を見ながら、「ほんまにとんでもないやつで（笑）」と、容赦なくツッコミを入れていました。

報告会では、過去に活動に参加した人も何人かゲストで登場し、活動初期の苦労話や、長く調査を続けることのやり甲斐等が語られました。また、そもそもこの調査活動が始まったのは、齋喜さんが或る電動車いすの人と一緒に歩いている時、車道を歩く電動車いすの人に「歩道を歩いたら？」と勧めたところ、「歩道は危険が多過ぎるから、歩かれへんねん」と、サラッと言い返された一言が強烈に心に残り、「いっちょやってみるか」と思い始めたという経緯も、紹介されました。



当日は多数の参加者で賑わっており、故人の人柄が偲ばれました。

歩道調査マップは、これからもインターネット上で公開され続けますが、あれだけの膨大なデータが、町の資料として存在するのは、素晴らしい財産だと思います。ぜひ後世に残ってほしいし、もし他地域でも同様の活動が始まられたならば、望外の喜びです。

